

令和7年度 第2回苫小牧市民文化芸術審議会 会議概要

日時：令和7年7月29日（火）13：30～15：40
会場：苫小牧市役所 第二庁舎2階 北会議室

出席委員：坂井会長、松原副会長、居島委員、川山委員、佐竹委員、
中川委員、中田委員、南(史)委員（中途退席）、南(正)委員、
宮川委員 計10名

事務局：教育委員会 園田教育部長
生涯学習課 田中課長、斉藤課長補佐
大垣主査、戸澤主任主事、大森主事

開会 (進行) 生涯学習課 田中課長

1 会長挨拶

2 議事 (進行) 苫小牧市民文化芸術審議会 坂井会長

(1) 令和7年度苫小牧市民文化芸術振興助成事業の審議

6月6日から7月4日までの追加募集結果について事務局より報告。

<質疑>

会長 まずヴォーカルアンサンブル縁、このご意見お願いします。

委員 何回か取材させていただいている団体で、これまでも助成なしで同じ名前のコンサートをされている。より多くチラシを作製し、PRに助成金を使うように感じました。項目を見ていくと謝礼と旅費を出すようですが、伴奏者はどういう方ですか。

事務局 伴奏者は団体の創設者で、愛知に転出されています。この度記念公演にお招きして伴奏していただくと伺っています。

委員 合唱連盟の方からも、コロナ後なかなか合唱人口が伸びないという声があります。合唱文化を盛り上げ応援するためにもいいかなと思います。

副会長 一ついいですか。今回のこの補助事業は、自分の団体の発表会だと対象外です。ここにいた方が今愛知にいるから、わざわざ呼ぶために補助をもらう。でも、さっきも言ったように自分の団体のメンバーなら自分たちで出さないとも考えられる。その辺、皆さんどういうふうに考えるか。絶対駄目じゃなくて、いいんじゃないかなと思うんだけど、そこをクリアできるかどうかを考えて

いただければ結論が出ると思います。周年記念とかだと、許可していたこともある。そこだけ考えていただきたい。

事務局 次年度が周年記念です。伴奏者は、現在会員ではないと伺っています。

委員 来年も同じような要求があるかもしれないですね。

副会長 来年は、それはそれでいいと思うけど。この方は創設メンバーなので、今でもメンバーじゃないのか。お客さんとして呼ぶという意識があるのかを確認したかった。

会長 前代表であり、この会には欠かせない方という認識でしょうか。

事務局 はい。他の合唱団にも携わっていた方ですので、この方を呼ぶことで聴きに來るといふ方もいると思われまふ。

会長 他にご意見ありませんか。

委員 毎回こたわって大変申し訳ないけれども印刷について。市の助成金をいただくのであれば、努力できるところはやっぱり削減していただきたいと思ひます。で、より多くの団体の方に万遍なく助成していただいた方が私はよろしいかなと。

会長 はい。毎回話題になりますね。

委員 安くできるものもあるけど、地元の印刷屋さんに頼むと相場なんでしょうかね。

委員 自分でデザインしたものを印刷するかでも違ひますよね。デザイン料でしょうか。

委員 だとしても、これだけいろいろな会をやってらっしゃる方でしたら、ある程度のパターンって決まっていると思ひるので、そんなに凝ったものはしないかなって。まあ、広告屋さんとのお付き合いもあると思ひうんですけど。

委員 やっぱり、最初に目についたのは、これがチラシ代なのかっていうところですよ。4万でまるまるチラシ代は難しい。単にコピーして配るだけだと高い感じがします。デザイン料とかそういうのを含んでいるんじゃないですか？

副会長 ここはちょっと判断できないですね。

委員 教会の中で、あの安い会場費の中でゴスペルを聴かせていただけるっていうのは、すごくありがたい企画ですよ。

副会長 その素晴らしい公演のチケット入場券を、どうしてとらないのかな。今、市内の歌声サークルとか結構無料ですよ。取ると人が集まらないってことで。最後に一つ。さっきの伴奏者の方ですが、今は団体をやめていて、公演に呼ぶのに助成を使っていますけど、自分のメンバーを呼ぶのであれば却下になりますから、そこだけ頭に入れて、今後対応していただければと思ひます。今回はいい

と思います。

会長
委員
副会長
事務局
副会長
委員
副会長
事務局
会長
委員
会長
事務局
副会長

では、助成の方は内定ということで。次にいきます。

地元のアーティストの単独ライブに、今まで助成していますか？
単独っていうと営利事業をイメージしてしまいますが。チケットを販売したり。

ありますね。市内で活動しているアマチュアじゃない、プロに近いマニアのメンバーも、チケットの販売もして、助成金もらって対応しているものでも許可を出したことはあります。今回10周年でそれはいいんですけど、音響技術費、楽曲制作費、映像作成費にすごい金額を、補助を使ってやるのが果たしていいのかどうか。これについて何か言っていましたか。

楽曲1はオープニングとエンディング。楽曲2につきましては「こども どもんなか」公式ソングのオルゴールヴァージョンを制作したい。この場限りのもので、シングルカットですとか、他では流さないと聞いております。

市長と会って記者会見していますよね。こういうことをやる、曲を作るって言ったんですかね。

学校関係で曲は配られましたね。今おっしゃったとおり、三味線のメロディーが入ったりとかして、本校も運動会のBGMでずっと流したり。

もう楽曲制作はできているってことですか。

すでにある曲について、オルゴールヴァージョンを制作するものです。

楽曲制作じゃなく、アレンジじゃないか。

曲自体はノリがよくて子ども受けもいい曲だったので、そういう意味で応援してもいいかなと個人的には思いますが、皆さんの評価表を見たら金額の問題とか、営利目的というのも出てきているので。違う立場の人からはそう感じるんだなと思いました。

確認ですが、楽曲制作費2曲について。1曲作って、1曲はアレンジですか。

1曲はオープニングとエンディングの、演出用の楽曲ということです。こちらについては音声が入るのか、音楽だけなのかはなどはまだ決まっていない、これから制作するということです。楽曲制作費は2曲分でこの金額です。楽曲制作の会社に委託して、通常は1曲あたり30万円ということですが、アレンジ代も含めた見積をいただいております。

それ、編曲しないで今あるやつ歌うんじゃない。そしたら楽曲制作しなくてもいいじゃない。なんでそんなことやるのかな。

事務局 今回流すタイミングですが、「こども どまんなかアクション」の一環として、今いろんな学校にワークショップを開催しています。その映像を流しながら、ハイライトという形で使いたいそうです。

委員 あの、この方ミュージシャンでご商売されていますよね。ご商売やるのに、楽曲を作るのにこの助成金を使うものなんですか。

副会長 そう。この場合、営利を目的にしていなくてということ、みんな言っているんです。音響技術も、前に市民会館にいた方に依頼して、そういうプロの業者。それで結局これですか。それと、会場備品費の8万円。音響とか映像、照明などが入りますが、これも業者がやるので別個にはかからないと思う。あくまで予算ですけど、皆さんには、そういうところも計算していただいて判断した方がいいと思います。音響技術費と楽曲制作費と映像作成費は補助に入らないよ、とか。それ以外を補助するやり方もないわけじゃない。

委員 地元のイベントに出演いただく、「こども どまんなか」に参加しているようなグループなんですけれども。お金の面もあるけど、観光大使とか、市の文化事業という風にしちゃったら、全部補助対象になるんでしょうか。一部招待とか入れると全部助成対象なのか。

会長 楽曲制作、映像作成、そのあたりをどう判断するか。ちなみに音響は苦小牧の業者ですけど、作曲と映像は違う。

副会長 補助がなくても映像やります、楽曲制作しますって聞いてますか。

事務局 審査の内容によっては、一部のものについて助成対象としないことがあると説明しております。規模を縮小してという話までは伺っていません。

委員 私たち素人から見ると、専門すぎて分からない。書きようによってはいくらでも書けてしまう。必要なものを書いているとは思わんですけど。

事務局 ホームセンターで資材を購入して自分で組み立てる。映像作成費用は4本で、オープニングとエンディング、ワークショップのハイライト映像、最後にステージ演出の映像と聞いております。

委員 映像作成って、今後のコマーシャルにも使えますよね。

事務局 当日のみ使用し、SNS等での公開はないと伺っております。

委員 なるほど。ずっと映像を撮っていて、全部繋げるのを委託するわけか。

委員 何回かライブで拝見したことがありますが、本当にライブ用に撮りためたもので、SNSなど宣伝用ではない印象でした。ただ、あの映像は自分たちで編集していると思っていました。私も作っ

- たことはないけれど、映像作成って高いんだなと感じています。
- 委員 「こども どもんなか」のアンバサダーとして一生懸命活動している、非常に応援したいチームですが。反面、やっぱりプロですよ、あの映像を見る限りは。やっぱり営利面に我々が支援するのはどうなのか。市長のところへ行って撮っている写真もあって頑張っているし、政策にピタッとあっているんだろうね。新しい金額のを配られてびっくりしたんです。前の金額が高いつて書いたの私なんですけど。それがこうパパパと落ちてきたから驚いた。もし安く済めば最後に清算するわけだから、これだけかかるんだと言われたらしょうがないですよ。落としてきてるんだし。
- 副会長 印刷代だって、デザイン料もすごいじゃないですか。さっきのと比べたらもう雲泥の差で。プロですね。そういう風に見ざるを得なくなる。この金額見ちゃうと、それで判断したくないけど、せざるを得ない。毎年やっていると目が行っちゃう。
- 委員 これを見ると、入場料 3,000 円とって満足いただけるもの、となると高くなってしまう。これをプロととるか。地域の振興や、青少年の豊かな人間性の構成を把握するとか、こういったこの趣旨をわかっているのであれば、対象になるのかなと思って見ていました。ただ金額の大小にいくとそれなりのお金をかけている。来ていただいた方に満足していただくものを作らなきゃいけないから、入場料をとるのもこれだけのものを提供するからだってことであれば、理屈が通っている気がしますね。徴収する金額のバランスを考えたら、私は違和感がない。
- 副会長 「こども どもんなか」で子どもさんと呼んで、いいのを見せて、ですからお金がかかるというのは全然いいけれども。CANDO LLKEYは本当にマニアというかプロに近い。三味線の二人は会社に務めているからプロではない。一緒にジョイント組んでやってますから、内容的には結構プロに近い。だから金額も、こっだけ一生懸命やるんだっていう意識を持っていると思うんですよ。だからいいのかって言われると、補助としてはどうなのか。音響と楽曲と映像についてはもう少し検討をお願いして、助成金 34 万から下がる可能性もある。印刷費も。
- 会長 今副会長がお話ししたことをもう一度お話しいただいて、他のところについては内定なんですけど。審査会にするかどうかどうしますか。
- 委員 専門の方じゃないとわからないので、私だと判断しようがない。
- 委員 助成するけどここには使わないで、とかはできるんですか。
- 副会長 委員の皆さん 10 人が、同意見だったら言えると思います。
- 委員 助成しますけど、絶対ここはプロっぽいし、営利が出るから使わ

ないでね。そういう明細を出してねとか、決算してくださいってできるんですか？団体に対していくら助成ってというのが筋だと思うんですけど。条件付きができないから審査会になるんですか。

副会長 いいとか駄目とか、やらないといけない可能性はありますね。30万あげるからこれでやって、っていうのはない。結局積みあがった金額なので、支出の中でこれは思わしくないとすれば却下というのも今まである。

会長 先ほどの「内容がわからない」というのも、明細が見えてこないで余計わからないと思うんですよね。音響技術費に人件費が含まれたり、楽曲制作に著作権問題が入るとすごいですよ。初演権だけなのとかも、本当は見えてこなければいけないんですけど。誰が作曲するのもわからない。

副会長 どうですかね、これ。他の団体が文化会館でやるときに備品代として出る音響、外から業者を呼ぶこともあるんですが、今回この金額は仕方ないかなと思います。CANDOLLKEYと三味線とゴスペルクワイアが札幌から来ますから。そういうメンバーをよんで、音響をちょっと専門にしたいっていうのは仕方ない。チケット代もとっているし。ただ、楽曲制作費で新しく編曲するというのと、映像作成費、既存のものを再度プロに頼んで4本作るのがどうなのかなんですよね。この点半分だけのむとか却下とかを考えていただければ結論が出るかなと思うんですが。学校で配っているものがあるんだし。

委員 オルゴールヴァージョンが必要な理由とかは聞いていますか。

事務局 とくに伺っていないです。

委員 イメージですが、学校で聞いたことのある曲がオルゴールになって、子どもたちも「わーっいいなあ」っていう雰囲気が出る。そういう演出意図だと思うので、いいんじゃないかと思います。

副会長 どうしましょう、2曲つくるから1曲分出しましょう。一本5万円を4本制作するなら、半分の2本で考えましょうとか。やっぱり高いのと、わからないっていうのがあるので、やってやりたい気持ちはわかりますから半分に下げましょうっていうのも、一つの案かな。

会長 入場料収入についてもどうなんですかね。これですぐいぶん変わってきますけど。

事務局 入場料収入は6割を見込んで作成するようにしています。CANDOLLKEYさんもアンバサダーとして7月8月に7件の学校を回っています。

会長 3,000円というのは苦小牧としては高額なので、果たしてこんな

に来るのかな。

委員 これに満足できるものってなると高くなる。かかる費用を抑えれば補助も下がるけど、そのオルゴールで子どもたちに喜んでもらうというところが、どうしても引けないこだわりだったかと思う。私は1曲分でもいいと思うんですけど、やらないと3,000円の価値がなくなる。入場料を安くしても、自腹が増えて補助も増える。その兼ね合いが。

会長 自己財源を見るとかなり覚悟がある。

副会長 子ども50人招待だけど、招待しない子どもは3,000円とるんですかね。

委員 招待された人は必ず来るでしょうね。

副会長 アイビーではどうだったんですかね。去年は満席でしたか。

委員 チケット払って見に行きましたが、100人くらい。客席は寂しい感じでしたけど。

委員 学校では相当浸透しているんですか、オルゴールじゃないヴァージョン。

委員 他はわかりませんが、本校は運動会でかけました。教育委員会から言われていたので、BGMでずっと流していた。ただBGMに姿はないので、どれだけ浸透したかはわからない。最初の自己紹介でアンバサダーとしてのインタビューはあったけど。見ていないので宣伝効果というか、ポスターと曲がつながるかはわかりません。

会長 ここまで却下するほどの強い理由はないので、ご意見なければ内定になりますが。

委員 うーん、自分は応援する側ですけど、額が額なので。減額とか条件付きとかの結論が出ないかなと。

委員 私もそう思います。副会長がおっしゃった半分とか。なんで半分かの理由づけが難しいですが。

副会長 ちょうど2曲と4本って書いてあるので、条件半分。やっぱり高い。10周年でどうしてもやりたいなら、自分で出してって言えなくもない。

会長 審査会はどうですかね。

副会長 やらなくていいんじゃないですか。入場料収入も下がる可能性がある。皆様のご意見を聞いたところ、この二つを削減するのがいいんじゃないかと思います。

事務局 確認させてください。支出の部の助成対象経費のうち、楽曲制作費を158,500円、映像作成費を100,000円として計算した額、これを助成対象費として、入場料収入等を減じて二分の一とした形

で計算しなおした分としてよろしいですか。

会長

はい。それでは一つ目は内定、二つ目は条件付き内定とさせていただきます。

※令和7年度の追加要望事業2件の内定（内1件は条件付き）について、了承を得る。

(2) 第2次苫小牧市民文化芸術振興推進計画について（取組結果）

市の10年間の取組と、各事業の評価指標から導き出された自己評価結果について、事務局より説明。

<質疑>

会長

ただ今の説明について、委員の皆さんの意見を伺います。

委員

自由記載にも書かせていただきましたが、評価AやBの施策をどうブラッシュアップしていくかが大事ですので、新たな目標設定が必要になってくると思います。

(3) 第3次苫小牧市民文化芸術振興推進計画策定について

第2次計画の取組結果から第3次計画策定に向けての事務局案について説明し、特に委員の意見が集中した4つのカテゴリーについて意見を求める。

<質疑>

副会長

情報発信について、44「文化芸術を支える人対象の研修会」と45「指導者育成」については、なにもやっていないような印象。70「子ども向け情報の発信」の意見にもあるように、単なる施設内掲示にとどまらない情報発信のあり方や強化といったところと連動して、もっといい方法がないか考える必要があると思います。ボランティアについては活動している方とお話する機会がありまして、社会福祉協議会の中にあるボランティア協議会には、高校生や中学生が参加していると聞いています。そういったところに文化や芸術の発展になるようなものを取り入れてはどうか。今どの団体も高齢化し「若い人に」って言葉は出るけどなかなか繋がらない。ボランティアを誘って参加させるというのも手段のひとつではないかと思う。HPについては見ない人が増えてきたので、SNSを使った情報発信により、若い人にも活動が見えてくるのではないかと感じました。

委員

私どももイベントをする中でボランティア部にお声がけしまし

たが、次期が学校の試験と重なって当日は参加いただけなかった。当日は年配の方から18歳まで15名に参加いただき、18歳の子がガラスにペインティングして、一緒に活動していた70歳の方がガラスふきをして。みんな笑顔で、本当にいいイベントになりました。高校生はもちろん、これから経験を積むためにも、年齢の違う方を組み合わせてあげるのは素晴らしいことだなと思います。

副会長 囲碁同好会のお手伝いにボランティアをお願いしたら、東高校のボランティア部が来てくれて、囲碁に興味を持ったりしてくれた。こういうのも精神教育などにもつなげて有効活用とか、「目指します」とか表現するとよくなるのではないかな。

委員 私用のため退席します。議長に一任します。

委員 ボランティアの活用とか、組織化する意図というのは、どこにあるのですか。手が足りないからボランティアを使うのか、ボランティアに参加してもらって文化的な交流をしようとしているのか。

事務局 今はボランティアセンターや学校ボランティア、各自がそれぞれしっかりとした形で活動されていて、お声がけすれば対応してくださる状況かと思います。第2次計画では、そういった形がないところに、どうすれば参加いただけるかという仕組みづくりを模索していたため作られた項目だと推察されます。あえてインセンティブ、組織化、意見交換がなくても、今あるボランティアさんにお声がけできることから、第3次計画では項目を統合したうえで表現していければと考えております。

委員 ボランティアについては思うところがあって。ボランティアといえども保証してあげないと。福祉センターの方は全部できている。例えば保険とか。ただ活用して、事故があったら知りませんといったことにならないようにしてほしい。

委員 お願いする方が事前に手続きすると思いますよ。ただ、人が足りないから活用するという考えがあるのも事実。

委員 PMF友の会という組織はすでにあるんですか。組織ができているのに評価はBなんですね。

副会長 友の会はPMFのときだけのお手伝いですからね。先ほどお話がありました、人が欲しいからボランティアを借りるのではなく、巻き込んで一緒になにかできないかという精神教育の方に活かしてほしい。

委員 じゃあ、統合でいいと思います。

会長 では、ボランティア項目については統合して考えてもらうとい

- 副会長 うことで。
先生にお聞きしたい。連携に関わることの中に、「学校教育との連携」がありますが、学校の中で芸術とか作品展のような、自由研究とか夏休みにやりますけど、そういう取組みを、人を呼んだりして力を入れていませんか。
- 委員 小学校だと、自由研究は下火になっている。この前校長会で、科学館の「発明工夫展」の協力依頼がありましたが、学校は自由研究や工作を作るといったものを全然やらなくなってきているのに、科学館からは協力の依頼が来て、そういう面では連携は切れてきている。以前のように、自由研究が課題になって工作してくる中から、ピックアップして発明工夫展に出しますよといった連携が取れていた時代からみると、今はすごい下火になっている。宿題自体がドリルかタブレットに時代が変わっているのです。
- 委員 どこの学校もやっているというわけじゃない。ポスターコンクールひとつとっても、応募は特定の学校ばかり。
- 委員 案内は出しますけどいないので。だからもし協力依頼が入るなら、「学年の授業とリンクしているから、これは学年をあげて応募しましょう」というようなスタイルが多くなっているとは思いますが。
- 委員 たとえば私のいた学校で虫歯のコンクールをしたら、歯医者さんが怒鳴り込んできたんですよ。「応募がゼロってどういうことだ」ってすごい怒られて。担任に根回しして、誰か取組むように指導してくれって言ったら、結果札幌まで表彰状をもらいに行く子どもが出てくる。そういう意味で、やはり教職員の意識をどういう風にこちらに傾けるかを、学校で必ず組織化してほしい。今や規制の事実みたいに、「あの先生が来て指導してくれると俺たちは楽だ」とか、「何もしなくていい」という意識の人が何割かいるんですよ。「これは不得手だからアウトリーチ使って」とかそういうことじゃなくて。自分もそこに行って、その先生の指導を見て、こう指導するんだなって勉強を先生方にもしてほしい。また、そういった意識を持たせる発信を教育委員会の方でも必要じゃないかって思うんです。「アウトリーチがありますよ」じゃなくて、「先生方もこういう技術を学びませんか」という言い方をしないと、ほとんどの先生は無関心です。興味関心があるのは教頭と校長くらい。どういう風にすれば先生方に、子供たちにとって部分を工夫していく必要がある。
- 委員 法人会でも税のコンクールがあるんです。30 エリアの部会があ

る中で、苦小牧はいつもブービー。下から2番目の募集しか来ないんです。役員の中でよく話すのは「校長次第よね」って。校長が声掛けをしている学校からは何枚か出てくる。やっぱり先生次第ですね。他のところが千枚、何百枚と出す中、苦小牧は2、30枚しか出てこない。いかに苦小牧が文化とかへの興味に、小学生が離れているのかっていうのがすごい悲しいです。すごく実感しています。

委員
委員

予算に関わる項目で「冬にアートフェスティバルのようなものを」ですか。少ないですよ。どうしても冬はスケート祭りがメインになっちゃう。重くなくてもいいから、目玉的なイベントがあれば、子どもたちもそっちを向くかなって。あと106「学校教育との連携」107「授業の一環で活用可能なプログラムづくり」の統合について。子どものいわゆる支援っていうのは、今全道・全国大会への出場で補助している形が多いんですけども、いつまでたっても底辺が伸びていかないなど。何かこう底辺でも文化活動をしている子どもたちに、どんどん支援をして、こうホッとやる気を持ち上げるような方法がないのかと思って。例えばこの会場費は全部免除とか、子どもたちでやるものには市で負担するだとか。文化不毛とか、何をやるにも趣味の、いわゆる人間多様化って言ってしまえばそれまでなんだけれども。今伸びているのってダンス団体くらいじゃない。他の音楽とか芸術的なもの全部、これはやっぱりちょっとテコ入れしないと。いつまでたっても他人事のように文化不毛の地なんて言っていられないので。

副会長

ちょっといいですか。「こども どまんなか」のちょっと詳しいこと。子どもたちに対して、具体的に何をやろうっていうんですか。

教育部長

いくつかありますが、市長が一番目指しているのは子どもの夢を実現させるところに力を入れています。直接文化芸術とは関わらないんですけど、例えば学校の職業体験でできるだけ社会と接したり、美術博物館の漫画やアニメーションとか。一人ひとり夢は違うんですけども、できるだけ夢を実現するような政策を考えているところです。

副会長

ちなみに、全国大会出場の補助って、学校所属の団体が対象なんです。ところが今地域移行にだんだんできてきていて、小学校なんてもう学校じゃない。全国に行くのに補助が欲しいって言ったら、学校じゃないから駄目だった。今後そういうのもここに、思い切って子どもたちの文化活動団体もいいんじゃない

かって。

- 委員 今そういう団体増えてきていますよね。
- 副会長 子どもたちの練習なんて、文化会館で年間約 20 万円の会場費。いままで学校で活動できた分が、そんな風にお金がかかっちゃっている。学校でできないのかって周りからいわれたんですけど、難しいんですよ。
- 委員 今文化会館が閉鎖になるじゃないですか。新しい市民ホールの使用料が倍になって。私たちもう発表会なんてできないって、もうあちこちから言われるんです。
- 副会長 冷暖房付きで、冬は 160%アップ、夏は 200%アップ。
- 委員 できるだけ、市外から公演にくる人たちをアップしていただいて、一般の市民に優待みたいなものをしてくれないかってお話しをしていました。
- 委員 苫小牧が文化不毛の地って言われるのは環境にあるのかなって。他の町は歴史を大事にしているなって感じます。有名なデザイナーが改修に関わった建物を文化資産に登録とか、保存とか。大事にしていくのが、子どもたちの精神的な豊かさに繋がるんじゃないかと思うんですよ。
- 副会長 なんで文化不毛って言われているか知ってますか。昭和三十年代の王子製紙に娯楽場とかがあって、全部無料だったんです。いわゆる福利厚生で。そういうのがあって、苫小牧って王子の街って昔から言われて、文化不毛だって言われてきた。お金を取るのがナンセンスだっていう時代だったんでしょうね。だから、ここで 3,000 円以上の入場料にするとあまり人が来ない。PMF なんて前売りが 3,000 円で、同じ演奏を K i t a r a でやると 6,000 円。それでも札幌は満席なんですよ。やっぱりそういうのが、今市民文化ホールを作るところが言うのもそこなんですよ。苫小牧は安すぎる、何に関しても。それを全国的とか北海道の札幌に近づけるためには、ちょっと改善が必要ってなんかいいように言うんですけど。それを変えるのは非常に難しい。ところが、この金額で市民文化ホールが来年できて、2 年 3 年と経ったら、それが当たり前だって多分なと思います。そこまではどうなのかなって思いますけど、難しいですよ。
- 会長 他に何かご意見がなければ、まとめたいと思います。

(4) その他

閉会 15時40分